

2011年6月14日

報道関係各位

中部学院大学短期大学部
幼児教育学科

県内IT企業と産学連携

学生がiPadの教育アプリケーションを企画開発

園児とiPadを使って交流します

中部学院大学短期大学部（学長 片桐多恵子）幼児教育学科では、学生が子どもや地域のひとと楽しく交流できる「iPad（アイパッド）のアプリケーションを立案・企画」。このほど完成したことを受けて、6月28日（火）、授業の一環として、桐が丘幼稚園で学生と園児がiPadを使って交流します。

同学科では、昨年度、電算システムIT研究所と共同で開発した「iPad」のアプリ「楽譜ソフト『Sonata Note 教育版』を活用し、初心者でも楽しく効率的にピアノの技能を向上できる授業を取り入れてきました。同時に学生自身が企画したあそびを、iPadのアプリに反映させるプロジェクトも同研究所と進めてきました。

今回は、企画に携わった2年生が桐が丘幼稚園の園児（年長58名）とiPadアプリを介して、あそびの交流をします。伝承遊びから最先端の情報端末機器までを取り入れたこの授業のねらいは、「あそび」と「子どもの成長」という両側面の幅広い可能性に関心を持ち、新しい分野に挑戦する積極性を養うことです。（詳細は別紙参照）

記

- 日時 2011年6月28日（火）午後1時～午後2時
- 場所 中部学院大学・中部学院大学短期大学部附属桐が丘幼稚園
（関市桐ヶ丘二丁目2番地 TEL:0574-24-0628）
- 参加者 幼児教育学科の学生10名、桐が丘幼稚園の園児58名
- アプリケーション 「ようこそ あそびスター☆ワールドへ」
～iPadをつかって、かず・かたち・おおきさであそぼう～

以上

（本件に関するお問い合わせ先）

中部学院大学 短期大学部 幼児教育学科（担当：杉山 祐子 准教授） TEL:0575-24-2211（関キャンパス内）

II. 2010（平成22）年度の取り組み

1. 前期の半年間で、「あそびすと養成講座」を5回開催。「認知あそび」とは何かという理論と技能を学習。あそび道具によるあそびを体験し五感で学ぶ。



2. 習得したあそびの技術を使って子どもや地域の人たちと交流し、あそびの理論と技能を伝えることができたかを振り返り、より向上するよう学習する。



3. 後期より半年間、習得したコミュニケーションの取り方を生かしたアプリの制作。iPad 独特の機能である、指で画面を触れる操作を生かしたあそびのアイデアを学生自身が企画し、アプリに反映させる。



- ① iPad上で可能な「認知あそび」のアイデア集め（2010年12月～）
グループ学習で、意見やアイデアの交換。
- ② 「アプリシステムに関する講座」を開催（2011年1月26日・4月20日）
電算システム IT 研究所の菊地研究員による、システム変換に有効な工夫のしかたを学ぶ。
- ③ それぞれ得意な作業を担当し、1つのアプリに組み込む。



Ⅲ. 2011（平成23）年度の取組内容

1. アプリ「ようこそ あそびスター☆ワールドへ」の『よいこのお部屋』第1次完成。
2. 今後、企画中のアプリ『折り紙あそび』『鍵盤アンサンブル』を、新一年生に引き継ぐ。

<今回の企画>

iPad アプリを介して、子どもとともに視覚・聴覚・触覚を使ったあそびを展開し、コミュニケーションを図る。意図した内容が伝わっているかなどの振り返りをし、改善点を見つける。また、新1年生へプロジェクトの引き継ぎと、意見交換を行う。今後新1年生が継続して取り組むこととなる。